

令和 5 年



県と市町の情報ホットライン

かがわ

vol.
121

発行●(公財)香川県市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/三豊市

My Town

全国初!学齢期の子どもが通える夜間中学誕生

株式会社XEN GROUP 代表取締役CEO 高畑 洋輔さん

Top Message

画期的な鮮度保持システムでMOTTAINAIを削減!

地域の元気印/土庄町・小豆島町

People

NPO法人トティエ



小豆島や豊島への移住をサポートし、空き家問題に取り組む「NPO法人トティエ」。

地元の方々にもより多くの理解を得るために理事長には地場産業界で活躍されている富田孝之輔さんに就任いただき、事務局長の大塚一步さんを中心に、酒井さん、鶴飼さん、堀川さん(土庄町地域おこし協力隊として派遣)らと日々、さまざまな相談に応じています。



三豊市



香川県初の公立夜間中学がある三豊市

全国初！学齢期の子どもが通える 夜間中学誕生

さまざまな理由で昼間の学校に通えない子どもたちが増えていきます。しかし、通常の夜間中学には学齢期の中学生は転入できません。三豊市では誰一人置き去りにしないために、公立の夜間中学を開設し、学齢期の子どもたちが通える夜間中学としての指定を受けました。今回は開設の立役者、一般社団法人基礎教育保障研究所理事長であり、三豊市立高瀬中学校で英語の教師として教鞭をとる城之内庸仁先生にお話を伺いました。



夜間学級がある高瀬中学校は、外観は太陽光パネルなどで環境に優しく、バリアフリーで幅広い世代に優しい校舎です。

義務教育段階の教育を受けていない人のための 夜間中学

2022（令和4）年、香川県初の夜間中学が三豊市立高瀬中学校に開設されました。かつて、日本における夜間中学は80校以上ありましたが、さまざまな理由で半減しました。ところが、2020（令和2）年の国勢調査では、全国で学歴ゼロ

といわれる未就学者約9万人、最終卒業学校が小学校の者が約80万人もいることが明らかになり、三豊市内でも義務教育未修了者が712人もいるという調査結果が出ました。たいいていの人は、読み書き計算が満足にできないことを隠そうとします。ニーズがなくなったの

ではなく、水面下に潜んでしまっているのです。

現在、公立の夜間中学は全国に44校ありますが、夜間中学は、主に高齢者である義務教育未修了者、形式的には卒業をしているものの実際には長期欠席などで十分な教育を受けていない方や外国籍の方など16歳以上が対象で、学齢期の中学生は在籍することはできません。

昼間の中学校に通えない 子どものための 唯一の公立夜間中学

2022（令和4）年度の文部科学省の調査によると、全国で小中学校における不登校の子どもが約30万人という

厳しい結果が出ています。このような子ども数は増加傾向にあり、義務教育を受けるべき子どもたちの多くが、何らかの事情を抱えて学校に行くことができない状態にあります。その現状を救う選択肢の一つとして、学齢期の子どもたちが通える夜間中学に大きな期待が寄せられています。このような状況の中、全国初、学齢期つまり義務教育を受けるべき年齢の子どもが通える夜間中学が、三豊市に誕生したのです。

全国では唯一（取材時）の貴重な夜間中学が香川県に誕生したきっかけは、岡山県で中国地方初となる自主夜間中学を立ち上げた城之内庸仁先生への一本の電話からでした。かけたのは三豊市の山下昭史市長。山下市長は、三豊市に夜



週5日、17時30分頃から21時頃まで授業があります。
教科は昼間の中学校と同じで、5教科の他に道徳や家庭科などの時間もあります。





毎年、多度津高校定時制との交流会で、ものづくり体験などを行っています。授業参観も行い、将来の進路を考える良い機会となっています。

城之内庸仁先生を中心に、三豊市立高瀬中学校の岩田典男教頭(右)と三豊市教育委員会事務局学校教育課の金藤かおり課長補佐(左)。学校の立場、教育委員会の立場から取材のサポートをしてくださいました。

プロフィール

三豊市立高瀬中学校夜間学級英語科教諭
しろの うち のぶひと
城之内 庸仁先生

一般社団法人 基礎教育保障研究所
理事長／岡山自主夜間中学校 代表
／全国夜間中学校研究会 理事／基礎
教育保障学会 理事／三豊市総合政策
アドバイザー／三豊市における夜間中学
協議会 委員 ほか



間中学を設立したい想いを伝え、「学校に通いたい」といながら通えない人がいるのなら、たとえ一人のためにでも安心して学べる環境を担保するのは行政の責任である。」と熱く語りました。その決意を聞いた城之内先生は、「ぜひとも卒業証書を授与できる公立の夜間中学を開校してほしい。」と逆に訴え、岡山県から協力していく決心をしました。そして、2022(令和4)年、三豊市に夜間学級が開設され、さらには、文部科学省の指定を受けたことで、全国で初めて、学齢期の子どもも通える公立夜間中学となったのです。

開設1年目には、学齢期の生徒が卒業を迎え、その後、高校で学んでいます。2年目の現在は、10代から80代までの学齢経過者の生徒が16人、市外から通学する学齢期の生徒が2人在籍しています。幅広い年齢層の生徒と協力しながら学び合うため、同調圧力や競争のプレッシャーもかからず、マイペースで学ぶことができます。それでいて、学校行事や季節行事、他校との交流会など行事は充実しているの、学校の楽しさを味わうことができます。例えば、七夕には地元の商品店の協力を得て浴衣の着付け体験をしたり、年に2回、多度津高校定時制との交流授業などを実施したり

しています。

誰もが義務教育を受けられる環境を整えたい！

もちろん運営の困難はいろいろあります。学齢経過者は一年間に700時間で卒業できますが、学齢期の生徒は805時間の授業時数が必要とされ、工夫して授業を行っています。その一つの例として、夜間の学校はICTの活用も盛んです。文字の理解が苦手な方が多いので、電子黒板での資料や映像を使用した授業は非常に重要になります。また、三豊市ではタブレット学習などの環境が整っています。一人ひとり事情も学力もさまざまなので、先生方の負担も少なくありませんが、夜間中学は教師の資質向上の場でもあります。夜間中学での経験が新たな視点となって、その後の教育実践活動に生かすことができます。夜間中学は、昼間の教育改革の大きな扉になる可能性がちりばめられているのです。

「行政には誰もが



現在、2024(令和6)年4月入学の生徒を募集しています。授業料や教科書代はかかりません。

義務教育を受けられる環境を整える義務があります。そのためには、多くの選択肢を用意することが重要です。同級生の同調圧力で登校が難しくなっている子どもたちや健康上の理由から午前中の通学が困難な子どもたちもいます。若年介護など家庭の事情がある場合も考えられます。どんな子どもたち、大人にも学びは大切です。学ぶことは生きること。学習権の保障は、生存権や幸福追求権を保障することにつながります。今やっと、学びの貧困で生活が立ち行かなくなっている人々が、少しずつですが声を上げられるような状況が整ってきました。ぜひこの機会に、行政と一体となって幅広い教育の場を提供していきたい！」と熱く語る城之内先生です。

香川の先進企業の力を探る あの人に会いたい！

株式会社XEN GROUP

代表取締役CEO

高畑 洋輔さん

他人の足並みを見て様子を伺いながら歩き出すのではなく、己が信念を持って、できれば先頭を切って取り組んで欲しい。香川県は自然豊かで天災も少ない、ここは世界でも豊かな環境を保有する場所。もつともつと有効に攻めるべきです。地域のために何をするかを後付けで考えるのではなく、目標設定を明確にして常日頃から頭に描いておいて欲しい。やってきたから仕方なく、言われたから仕方なく、情性では未来に役立つものは育ちません。

50年の歴史ある企業をスタイリッシュな社名や社屋に改め、2022（令和4）年には「かがわ成長する企業大賞（ものづくり部門）」を受賞、2023（令和5）年には「かがわ地方創生SDGs登録制度」の認定を受けた株式会社XEN GROUP（ゼングループ）。画期的な鮮度保持を実現した食品熱交換装置「X-Charge unit（クロスチャージユニット）」を生み出した高畑代表にお話を伺いました。





高畑代表自ら設計に関わった本社建物。現在も増築、改築が続く。常に成長を続けるXEN GROUPを象徴している。

社員の声にすぐ応えたいという高畑代表。社長のデスクは同じフロアにあり間仕切りもない。



広々とした工場内では、板金、機械加工、溶接、塗装、組み立て、配線などの作業が一貫して行われている。

■ 社是、企業理念を教えてください。

経営理念は、「Happiness Maker（ハピネスメーカー）」。「取引先さまの幸せづくりのお手伝いはもちろん、全従業員の心豊かな生活を実現する企業活動を目指すということ」です。行動指針は、情熱・信頼・進化。「情熱」を持つことにあたり、「信頼」すること、人を育み、変革すること、で「進化」する企業を目指し続けています。スローガンは「楽しくなければ仕事じゃない!」。環境が新たなチャンスを生み、前向きな姿勢が輪を広げると考えています。何事も、まずは環境を整えることが大切でしょう。

■ 貴社の事業内容についてお聞かせください。

自社製品を用いたXEN BRAND（ゼンブランド）事業、これまで積み上げてきたOEMでの製造部門にあたるMACHINE（マシン）事業、そして高付加価値食品を作るFOOD（フード）事業、地域貢献を視野に入れたAGRI（アグリ）事業の大きく4部門に分けています。XEN BRAND事業は、モノづくりをベースとしたSDGsの達成に向けたビジネスモデルの開発に取り組んでいます。

MACHINE事業は、さまざまな要望に応える機械装置の開発・製造の一貫体制を確立したマルチファクトリーです。FOOD事業は、機械装置を用いて付加価値を創造するモデル工場です。AGRI事業は、持続可能な農業を追求すること、地域活性化と地方創生を目指します。

■ 貴社の主力商品について教えてください。

XEN BRAND事業のミッションを一言で言えば「フードロス無くそう!」。このミッション達成に向けて自社の二つの製品で取り組んでいます。一つ目は、食品の品質を保持すること、そもそもフードロスを出さない、特許を取得した食品熱交換装置「X-Charge unit（クロスチャージユニット）」。「二つ目は、廃棄される食品を乾燥させアップサイクルできる「X-Dry unit（クロスドライユニット）」です。弊社の強みは機械・電気・ソフトの設計から、板金、加工、溶接、塗装、組立、電装、据付、メンテナンスまでを一貫して行えること。この50数年培ったモノづくりの歴史から自社ブランドが誕生したのです。

■ 製品「X-Charge unit」について詳しく教えてください。

現在、食品の多くは、生産者から消費者に届くまでの過程を大量生産、大量調理、大量消費という形で流通しています。期日の問題、工場の問題、理由はさまざまですが、結局は品質が落ちていくために、時間と戦いながら作業をしなければなりません。そこに、食品添加物や保存料を加えて、どうにか商品として長持ちをさせ



「フードロス無くそう!」を合言葉に自社ブランドから送り出す二つの機械。画期的な鮮度保持を実現した「X-Charge unit」と食品をアップサイクルできる「X-Dry unit」。

ようとしています。これ自体が人々の暮らしを苦しめている要因だと気付きました。人間らしい暮らしには、余裕が大切です。早朝から、または夜中まで働いて、やっと間に合う仕事では人々が幸せになると思えません。そこで、「食材や加工直後の時点で鮮度・品質の保持ができないものか…」と考えていました。そんな時、食品の長期保存について長年研究をされている方とのご縁をいただき、開発を始めました。世の中の生体は大半が水分で成り立っていて、その水分が温度変化によって拡張、縮小、移動することで品質が劣化します。この水の動きをコントロールして安定させることができれば、添加物を使用せずに鮮度保持が可能になるのです。例えば、通常レタスであれば2週間でおれてしまいますが、2カ月鮮度を保つことができますのなら、生産者も余裕のある出荷作業を行うことができ、売るタイミングを調整することもできます。5回ほど試作を重ね、ついに3年前にX-Charge unitが完成しました。

現在は食品の長期保存「冷凍」ということになっていますが、水を安定することができれば冷凍せずに長期保存できる食品もあります。

また、X-Charge unitで水を安定させた後に冷凍すれば、これまでのような冷凍による劣化や霜が付くことがありません。既に魚、肉、果物などを取り扱う10社ほどで使用してもらい、大変好評をいただいております。現在は冷やし固める装置や、冷凍品をストックする装置の開発も進めています。

自社商品を取り扱うことの難しさ、楽しさ、やりがい等についてお聞かせください。

もちろん簡単なことではありませんが、今はこれが世の中に広がったら何が起こるのだろうと想像し、わくわくする気持ちの方が大きいですね。物流、働き方、人の動きも全てが変わります。生き方や価値観も大きく変わるでしょう。もちろん、各企業にお話しに伺うと、これで世界が変わるじゃないかという反響をいただいています。その日を夢見て、現在はさまざまな業界の方にお話をさせてもらい、サンプルテストを重ねています。

「MOTTAINAI(もったいない)」を具現化して事業を実施されておられますが、い「MOTTAINAI」についてのお考えをお聞かせください。

私たちが言っている「MOTTAINAI」は、食品をはじめとした「物」に対してのもったいないだけでなく、時間やエネルギーなども含めています。今の状態や方法が最善と思わずに、効率を求めて物事を考える頭を持つていようということです。限られた時間を有効に使うことは非常に重要なことですから。

事業の中でも、「MOTTAINAI エンジン」を提唱しています。

例えば、重たい物を運ぶ作業を我慢してやっているなら、コンベアを入れて楽に効率良く仕事ができるようにするなど。お客様も気付いていないような問題点に対しても解決策をどんどん提案して、お客様の時間を有効に生かせるようエンジンリングするという意味になります。

こうした考えは、京セラ創業者の稲盛和夫氏が主宰した経営塾「盛和塾」で学びました。実は、最初はいいやや入塾した幽霊部員でした。

先輩の方々に叱咤激励を受け、一生懸命にやっているつもりなのに、まだまだなのかと悔しい思いもしました。稲盛さんの経営12カ条から学び直し、ある日ふと小さい頃からやってきたサッカーと経営は同じだなと気がつきをもらいました。人を大事にする



経営者として多くの学びがあった「盛和塾」。稲盛経営者賞を受賞。世界大会経営体験発表者に選ばれ敢闘賞も受賞している。

という意味では同じことで、数字に追われるのではなく、人を育てて事業を伸ばすことが大事だと気付きました。難しく考えるのではなく、人として当たり前のことを考えればいいのだ、シンプルにサッカーのチームを育てるように会社も育てればいいのだと納得しました。26歳頃は読む物によって右に左に大きくぶれていましたが、「盛和塾に入つてぶれなくなつた」と周囲からも言われるようになりました。

香川県や市町の行政に対して感じていることをお聞かせください。

人の足並みを見て歩き出すのではなく、勇気を持って先頭切つて取り組んでほしいと思います。もともと人々を呼び込める香川県であつて

ほしい。他がやったからやろうじゃなくて、率先してこの風土や地理を生かした事業を育ててほしい。海もあるし山もあるし天災も少ない、ここは世界でも豊かな環境を保有する場所。もともとと有効に攻めるべきですよ。

管理できないことを法律で縛ることが多いように思えます。がんばらめではなく、融通を利かせるところは利かせないと、前に進めないと思いますね。昔は、皆が同じようなことを同じようにしていたかもしれないですが、今やそんな時代ではありません。教育にも言えますが、右へ倣えではなく、また、平等にこだわり過ぎるのではなく、勢いのあるものは伸ばしながら底上げをしていかないかと、地方は沈んでしまっています。

自社のことで申しわけありませんが、新技術には他県も興味があり、この技術を使つた地域おこしの可能性について、すでに検討に入っているところもあります。香川県の行政の方々にこそ興味を持っていただきたいと願っています。

加えて、身近な困りごとですが、わが社は若い社員が多く、最近、続け



行事ごとのみならず普段から家族同様の仲の良さがある皆さん。社員さんの中には、親子二代にわたってXEN GROUPで働いている人も。

て赤ちゃんが誕生しました。そこで、社内に託児所を造ろうと計画したのですが、認可が下りませんでした。国では延べ人口で保育所の数を決めており、既設で十分満たされていると判断するわけです。ところが、働く人々の現状で考えれば、例えば、自宅周辺に託児施設があったとしても、時間的に利用できない場合もあります。職場に託児所があれば、どんなに助かるだろうかと思えます。女性の社会進出や働き方改革、何より少子化対策に力を入れているはずの国がこれでは、と現実の壁に驚いてしまいました。ときに行政にはそんな

な矛盾があります。現場を知る地方だからこそ、現場の目線で改革に取り組んでいただきたいと思っています。

本誌を読む自治体職員に向けて、アドバイスをお願いします。

地域のために何かをしたいと思つて香川県の行政に携わつたのであれば、何をするかを後づけで考えるのではなくて、何をしたいかを常日頃から頭に描いておいてほしい。やつてきたから仕方なくするとか、言われたからやるというのでは、未来に役立つもの

は何も育ちません。思い描いたものが実現するチャンスが与えられるかどうかは、その時の状況によるかもしれませんが、熱量があつて伝えることができれば、チャンスはいつかやってきます。できないことを理由にやらないのではなくて、どうしていくか、どうなるかを常にイメージして、チャンスが来れば素早く応えてほしい。皆さんが地域を導いて行くのですから、地域の未来に向けてやるべきことを、常に思い描き続けてほしいと願っています。



高畑 洋輔 (たかはた・ようすけ)

香川県出身 (高松市在住)

昭和54年7月30日生まれ 44歳

平成14年 愛知学泉大学 卒業

平成14年 有限会社高畑電機入社

(現 株式会社XEN GROUP)

(平成14~平成16年ヤマザキマザック株式会社に出自)

平成19年 専務取締役役に就任

平成23年 代表取締役役に就任

平成26年 第22回盛和塾世界大会にて

稲盛経営者賞受賞

平成29年 第25回盛和塾世界大会にて

経営体験発表 敢闘賞受賞

現在に至る。

PROFILE

本社所在地 香川県高松市三谷町3234-10



デジタル戦略総室 情報システム課
主任 平井 進

職員開発システムによる 生成AIの業務活用

職員開発システム「CatBot」

香川県では、今年9月から、県の専任職員が独自開発した「CatBot」システムによる生成AIの業務利用を開始しました。

このシステムは、Microsoft社が提供するChatGPTサービスと繋がっており、職員がCatBotに入力した情報はChatGPTに転送され、そこで生成した文章がCatBotに返される仕組みとなっています。

このような仕組みには、次のメリットがあります。

- 職員が入力した情報がChatGPTの学習に使われないので、情報漏えいのリスクが軽減される。
- CatBotとの対話履歴が記録されるので、過去の対話内容を参照できる。
- 職員は個別にChatGPTのアカウントを取得する必要がないなど、生成AIを手軽に利用できる。

また、このシステムには、「庁内QA機能」も搭載しています。

ChatGPTは、通常、事前にインターネット上で学習した情報をもとに文章を生成しますが、この機能は、CatBotに登録した庁内

の規程やQ&Aなどをもとに、職員からの質問に答えてくれるもので、現在、一部の業務から実証実験を開始しています。



CatBotの仕組み(文章構成機能)

利用ガイドラインの策定

生成AIの業務利用に当たり、利用する際の注意事項等を記載した「生成AI利用ガイドライン」を策定し、次のようなことを定めています。

- 現時点では要機密情報の入力は禁止。
- 生成物の内容に虚偽情報が含まれている可能性があるもので、必ず内容が正しいことの裏付けを取る。
- 生成物が著作権等を侵害していないか十分に確認する。

人間にしかできない仕事に注力

現状、生成AIには、「虚偽情報が含まれている可能性がある」、

「著作権等を侵害する可能性がある」などの懸念点もありますが、生成AIの技術はまだ黎明期にあり、これらを改善する技術もすぐに開発されていくと考えられます。

私たち自治体職員は、生成AIを積極的に活用することで自分の業務を効率化し、そこで生まれた時間で、人間にしかできない創造的な仕事、対面できめ細かに行わなければならない仕事に注力していく必要があるのではないかと考えています。



CatBot画面

会計年度任用職員に対する 勤勉手当の支給について

市町からの

Q & A



政策部 自治振興課
主任主事 宇都宮 広

2023（令和5）年5月に
公布された「地方自治法の一
部を改正する法律」が一部を
除き2024（令和6）年4月
1日から施行されます。
そこで今回は、改正事項
の1つである「会計年度任用
職員に対する勤勉手当の
支給」についてご説明いたし
ます。

**今回の改正でどのように
変わるのか？**

A これまで、パートタイムの
会計年度任用職員に対
しては、期末手当のみの支給
でしたが、今回の改正で、勤勉
手当も支給することができ
ようになりました。

これにより、会計年度任用
職員の人材確保や意欲向上と
いった効果が見込まれ、ひいて
は行政サービスの向上に資する
ことが期待されます。

改正の経緯は？

A これまで、国の非常勤職
員においては、勤勉手当
の支給が可能であったため、国
及び地方公共団体の常勤職員
並びに国の非常勤職員と地方
公共団体の会計年度任用職員
との間に不均衡が生じていま
した。

そこで、国の取扱いとの均衡
の観点から、会計年度任用職員
にも勤勉手当を支給すること

ができることとなりました。

**県内のすべての市町で来年
度から勤勉手当の支給が
開始されるのか？**

A 勤勉手当を支給する
かどうかについては、各市町
の任命権者による判断となり
ますが、仮に支給しない自治体
があつたとしても、直ちに地方
自治法に反すると解されるもの
ではありません。

ただし、臨時・非常勤職員の
適正な任用・勤務条件を確保
するという2017（平成29）年
及び今回の地方自治法改正法
の趣旨や、地方公務員法に定
める情勢適応の原則や均衡の
原則から、一定の会計年度任用
職員に対し、勤勉手当を支給
することが基本であると考え
られます。

**対象となる会計年度任用
職員とは？**

A 任期が相当長期にわた
り、週当たりの勤務時間

が15時間30分以上の者を基本
とし支給すべきである、と総務
省からの運用通知にて示され
ております。この場合の「相当
長期」とは、会計年度任用職員
の任期が最長でも1年である
こと等を踏まえ、6カ月以上と
されております。

**1年間で支払われる勤勉
手当の額はどのくらいか？**

A 勤勉手当の支給にあつ
たては、常勤職員に準じ
た取扱いが基本とされており
ます。常勤職員に準じた場合、
勤務成績が良好で病気休暇等
の除算期間がなければ、およ
そ1カ月分の給料が年2回、
勤勉手当として支払われます。

なお、会計年度任用職員に
対する勤勉手当の支給にあたっ
ては、常勤職員に適用される
制度を基本としつつ、各団体の
実情、任用の実態等に応じて、
細部において異なる制度設計
とすることは否定されており
ません。

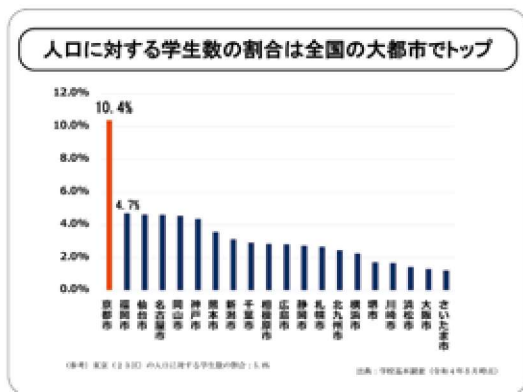
京都府 京都市



京都市総合企画局 総合政策室
大学政策部長 小笠原 晋さん

京都学生祭典：21回目となる今年のテーマは「飛んで、翔けろ!～京に輝く学生の力～」

「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進



人口に占める学生数の割合は1割以上(指定都市でトップ)

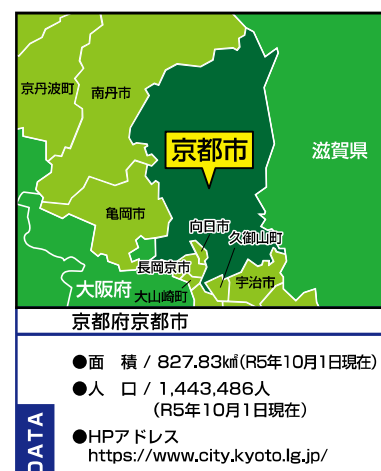
京都市は、36の大学が集積し、15万人の学生が学ぶ「大学のまち・学生のまち」です。

現在、本市の大学政策は、専任12人と、基礎自治体としては異例の体制で推進していますが、30年程前までは、

2 全国初・最大の 大学コンソーシアム京都

1 はじめに

私は香川県出身でありながら、京都の大学に進学、京都市に就職、京都市内に住居を構える「ふるさと不孝者」ですが、少しでも故郷に恩返しするつもりで、本市の大学政策を紹介したいと思います。



大学が政策の対象として意識されることはありませんでした。

契機となったのは、昭和の終わり、工場等制限法の規制による大学の市外流出。これに危機感を抱いた本市と各大学が、連携組織として設立したのが「公益財団法人大学コンソーシアム京都」です。

コンソーシアムには市内全ての大学が加盟しており、個別では難しい先進的な取組みを実施しています。

例えば、単位互換制度は、世界遺産を舞台にした京都ならではの科目も含めた加盟大学が提供する300以上の科目について、京都の学生なら誰でも受講でき、自校の単位として認められるものです。

また、コロナ禍により多くの学生が不安な生活を送る中、大学間連携に

よるワクチンの職域接種の仕組みを構築し、学生が安心して学ぶことができるまちとして大きな役割を果たしました。

3 まち全体で大学の枠を超えた学びを支援

(1) 京都学生祭典

2003(平成15)年に経済界からの呼びかけに学生が応える形でスタートした「学生のまち」の象徴。毎年10月に平安神宮一帯で開催される「本祭」では、おどりやアート等、学生が企画から運営までを行い、今年は雨天にもかかわらず6万人を超える方に来場いただきました。また、年間を通じて、子ども食堂でのボランティア等、地域活動も積極的に行っています。

(2) The Future of KYOTO AWRAD

地域企業と学生の接点をつくり、学生の地域への愛着を一層醸成するため、学生の地域課題解決の提案を表彰し、社会実装までを企業が伴走支援する仕組み。「寄ったかつて支援」を合言葉に取り組みを進めており、西陣織帯地のアパレルブランドの起業につながった事例もあります。

(3) 留学生スタディ京都ネットワーク
大学、日本語学校、経済界、国際交流団体等のオール京都体制で留学生の誘致から、住居、暮らし、交流等の環境整備、就職までを一貫して支援する仕組みとして2015(平成27)年に結成。以降、市内の留学生数は1.6倍と全国の増加率を上回る増加となっています。



留学生の茶道体験プログラム：定員の4倍以上の応募のある人気企画

4 大学の知・学生の力で ともに地域課題を解決

(1) 学まちコラボ事業

学生と地域の協働による課題解決

の取組みについて、2004(平成16)年度以降、累計232件を支援してきました。人口減少の著しい北部山間地域の文化・特産品をいかした活性化等、地域に定着した取組みを多くみだしています。



学まちコラボ事業(都ライト)：京町家の景観や西陣地域の新たな魅力を創造

(2) 3-1(Local Learning Life) APARTMENT

公営住宅入居者の高齢化や地域の担い手不足が課題となる中、学生が市営住宅で暮らしながら、自治会活動などに参加することで、地域コミュニティの活性化や学生の「暮らしから学び」へつなげていく全国初の取組みです。

(3) ふるさと納税を活用した
大学の地域連携促進

寄付のお申込時に応援したい大学を指定していただき、寄付をいただいた大学において、学生支援や教育の充実に活用する仕組みを創設。お子さんが通う大学や御自身が学生生活を過ごしたまちを応援したいという、「第2のふるさと」への思いに応えるものとして、年々、寄付額が増加しています。

5 結びに

京都が幕末の戦乱や明治維新により、人口が3分の2に減少したとき、当時の町衆は「まちづくりはひとづくりから」と、自らお金を出し合い小学校を設立しました。

今でも、京都の大人は「学生さん」と「さん」付けで呼びかけ、そのチャレンジを一緒に楽しくむ心意気があります。

こうした、まち全体で人を育てようというマインドに本市の大学政策も大いに支えられています。

今後、18歳人口の減少、大学淘汰の厳しい時代を迎えますが、地域の皆様とともに、学生に「学ぶまち・暮らすまち」として、選んでもらえるよう、力を尽くしてまいります。

香川の まち歩き

瀬 戸内海に大きく突き出た大串半島は、小豆島をはじめ晴れた日には淡路島まで見渡せます。東京ドーム約20個分の広さがあるという半島で、さぬきワイナリーなどの見どころの施設や歴史の足跡を訪ねます。



この日、半島ガイドをしてくださったのは、さぬき市商工観光課の阿部洋さん。

旧志度町時代からさまざまな観光施設が整備されてきた大串半島。その施設を代表するのが、四国唯一のワイナリーとして1989(平成元)年に完成した「さぬきワイナリー」。地元さぬき市や多度津町のブドウを原料に県内産の本格的なワインを醸造しています。ここでは一年を通じて内部の見学が可能です、実際の醸造現場やパネル展示などでワインの造り方を学ぶことができます。

見学の後は、すぐ隣の「さぬき市物産センター」でワインの試飲や買い物を楽しむことができます。中でも一番人気は、香川大学農学部が研究開発した赤ワイン専用のブドウから醸造される「ソヴァージュ・サヴルーズ(芳しき野生の乙女)」。まろやかな味なのに色が濃く、通常の赤ワインに比べポリフェノールが2.5倍、アントシアニンが2倍も含まれています。県内の量販店や東京にある香川県のアンテナショップにしか置いていないという貴重なワインです。

休憩コーナーから真下に見えるのは「シーサイドコリドール(海の廻廊)」。ここには、海を望むサッカー場とオートキャンプ場があります。キャンプ場にはオートキャンプサイト12区画とコテージ4棟があり、週末は予約ですぐ埋まります。

次に訪れたのは「長ぞわい観音」。大串半島の東に海に突き出た岩礁があり、不気味な音と波しぶきを上げていたことから「長ぞわい」と呼ばれていたとか。

ワインでほろ酔い 絶景と歴史の半島めぐり さぬき市



芝生席も含め約1万人を収容可能という国内屈指の「野外音楽広場テatron」。



※時期や施設建設のための工事などによって、休業している場合があります。ご利用の際は、あらかじめご確認ください。



香川大学農学部の研究開発から生まれた「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」。貴重なご当地ワインを、ぜひご賞味ください。



「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」を沖縄の海に沈めて熟成させた「海底熟成ワイン」。桐箱入りの貴重な逸品です。



さぬきワイナリーを案内してくださった、株式会社さぬき市SA公社大串事業部副部長の草刈賢次さん。



12のタンクが並ぶ「さぬきワイナリー」では、最盛期には年間約10万本を醸造していましたが、現在は約2万本を醸造しています。



「さぬき市物産センター」では、香川県ならではのワインをはじめ、四国の土産物やノンアルコール（アルコール1%未満）の「ワインソフト」が販売されています。

大串半島には歴史の足跡も残されています。その一つが「大串狼煙場跡」。かつて岬の頂上には石積みの狼煙場があり、戦いや事件が起こると煙を出して知らせました。ここにあったのは、江戸時代中期以降に高松藩が構築したもので、1984（昭和59）年に現在の場所に移転修復されました。また、「長ぞわい観音」の近くには幕末に築かれた砲台場跡があり、山中には真っ白い凝灰岩の石切場跡もあります。

最後にご紹介するのは、2024（令和6）年6月に



18世紀末に外国船の脅威に備え、海防施設として建設された砲台跡や狼煙場跡が残されています。

伊勢湾台風で観音様が流され、引き揚げて元の位置に戻したものの参りする人も少なくなってしまうので、1988（昭和63）年に大串観光のシンボルにしたいと庵治石の観音様が再建されました。「長ぞわい観音」から遊歩道で向かうのは「野外音楽広場テアトロン」。瀬戸内海を見下ろす絶景の地に古代ギリシャ風のステージが広がり、庵治石が敷かれた観覧席は自然の勾配を生かし設計されています。著名人のコンサートが開催されたり、動画制作や結婚式の前撮りなどにも利用されています。



緑に包まれて庵治石の美しい仏像「長ぞわい観音」が立っています。

遭難した人々の供養と交通安全を願って200年程前に半島の先端に観音様を建てたのが始まりです。

オープン予定の施設。以前は温泉施設があった芝生広場に、カフェが入る建物を建設中です。景観を損なわないために決して大きな建物にはせず、テイクアウトを充実させ、周辺広場での食事を楽しめる建物にしたとのこと。完成すれば絶景カフェとして、多くの人が訪れることでしょう。



「シーサイドコリドール」には、水道や電気の設備が整ったキャンプサイトと冷暖房完備のコテージがあり、眺望を楽しみながらアウトドアライフを体験できます。



香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

観音寺市
市民課

たかはしりょうた
高橋 亮太さん



■今、熱中していることは？

サウナに入ることです。サウナ後の水風呂と外気浴の気持ちよさが癖になります。

■観音寺市のいいところは？

大野原のレタスや伊吹島のいりこなどの特産品が豊富であり、観光名所も多く、とても住みやすいまちであるところです。

宇多津町
保健福祉課

いのうえ かこ
井上 佳子さん



■あなたのチャームポイントは？

どんな時も、物事の良いところに目を向けて、前向きな気持ちで頑張れることです。

■宇多津町のいいところは？

町民の方とのコミュニケーションを積極的にとりながら、幅広い年代の方が安心して暮らせるまちづくりに励んでいます。

三木町
環境下水道課

おおしま ひろき
大嶋 大樹さん



■目指す人物像は？

あの人がいれば大丈夫！と周りの方から信頼される職員になりたいです。

■三木町のいいところは？

県外に出た若者が帰ってくるまちにしていきたいです。ゼロカーボンシティの取組みを通じて魅力的なまちにしていきたいです。

坂出市
税務課

よしはら こうし
吉原 虎志さん



■今、熱中していることは？

休日には愛犬と散歩をすることです。自然豊かな風景を眺めていると、とても心が癒されます。

■坂出市のいいところは？

温暖な気候で自然に囲まれており、とても過ごしやすいところです。また、瀬戸大橋がかかっており、四国の玄関として重要な役割を果たしています。

丸亀市
建設課

まきもと そうた
牧本 颯汰さん



■あなたのチャームポイントは？

行動力があることです。学生時代に課題研究や実習を通して身につけてきたと思います。

■丸亀市をこうしたい！

全世代の方々が暮らしやすいと感じ、安らぎや潤いを実感できるまちづくりをしていきたいです。

東かがわ市
保健課

ばんどう まひろ
坂東 真都さん



■今、熱中していることは？

食べることです。特にパンやスイーツ、焼菓子が好きで色んなお店に行っています。

■東かがわ市のいいところは？

オリブハマチや讃岐サーモンなど美味しい海鮮を楽しめます。また、地域住民の皆さんも温かくアットホームです。

三豊市
地域戦略課

はら みさき
原 美紗稀さん



■今、熱中していることは？

和太鼓です！太鼓をたたいた時に感じる爽快感が好きです！スッキリ気分転換にもなります。

■三豊市をこうしたい！

住みたい！戻ってきたい！と思える魅力あふれるまちにしたいです。三豊市内外にしっかりと三豊というまちをPRします。

三豊総合病院企業団
中央検査部

もり わかな
森 郁菜さん



■目指す人物像は？

正確かつ迅速に検査結果を提供でき、信頼される臨床検査技師を目指したいです。

■企業団のPRをお願いします！

地域の中核病院として住民の皆さまの健康を支えており、患者さんやご家族に寄り添った医療を提供しています。



土庄町・小豆島町の移住担当課職員・地域おこし協力隊とNPO法人トティエで構成する移住チーム。



従来からの対面・電話・Eメールでの相談に加え、最近はzoomやSNS・LINE等のメッセージでの問合せも増加しています。



土庄町・
小豆島町

小豆島・豊島の移住サポート NPO法人 トティエ

(NPO法人トティエ専務理事兼事務局長 大塚 一歩さん)



トティエが制作を担当した冊子「まわる、まわる」と、三部構成となっている移住ガイドブック。



2012(平成24)年小豆島に移住してきた大塚さんは、ご自身の経験を生かし多方面で活躍中。

いずれの市町も人口減少に頭を抱える
昨今、小豆島には移住・定住をサポート
する「NPO法人トティエ」(以下トティエ)が
あります。団体名は、移住の要である土地
と家を組み合わせ、つなげるという意味を
持った造語。移住の問題と空き家の問題
を一挙に解決できないかと2016(平成
28)年にスタートしました。

が始まりました。一方、空き家の増加も
深刻な問題となっており、現在郡内に約
3千件ある空き家が、さらに増えることが
地域課題となっています。空き家の活用が
集落維持の鍵を握っていると言っても過言
ではありません。この二つの大きな問題に
民間の立場からサポートを行っているのが
トティエになります。

土庄町、小豆島町、トティエが一体と
なっており、毎年郡人口比1%を超える
方々が移住しています。しかし、「私たち
だけでこの実績を作っているわけではあり
ません。」と事務局長
の大塚さん。「魅力的
な自然環境、歴史・文
化、さらに産業も盛ん
で、離島だけでなく多様な
仕事があることがま
ず大きい。」と分析。

移住促進で主となる情報発信は、ポ
ータルサイトやSNS、動画でのPR等、イン
ターネットを中心に力を入れています。加え
て、県等主催の移住フェア、独自の移住セミ
ナーの開催、空き家ツアー等、2022(令和
4)年度は34回のイベントを行政と協働。
大塚さんは「行政区の垣根を超え、地域の
未来を意識した活動をする事で、その
熱量が地域へと波及して
いることが強み。」だと
言います。今後は「試行
錯誤な数年でしたが、
原点に立ち返って移住
に不可欠な『居(交流・
職・住)のサポートの質
を高めることを追求し
たい。」と語る大塚さん。
島の暮らしを夢見る人
にとつてはもちろん、島
の人々にとつてもたの
しい元気印となる
トティエです。

DATA

NPO法人トティエ
香川県小豆郡小豆島町西村甲1896-1
オリーブナビ小豆島内
☎0879-82-1199 / cont@totie.org



市町等職員研修事業

市・町・一部事務組合等の人材育成を支援するため、
香川縣市町職員研修センター（公益財団法人香川縣市町村振興協会内）で研修を実施しています。

階層別研修	初任者、3年目職員、一般職員、係長級(主査等)、係長級(監督者)、課長補佐級、課長級
能力開発研修 (県との合同研修)	意識改革、政策形成、法務能力、対人能力、マネジメント、職務遂行に関する39講座
専門研修	コンプライアンス研修、人事管理基礎研修他
派遣研修	市町村アカデミー、国際文化アカデミー、自治大学校、 香川大学大学院地域マネジメント研究科、下水道事業団研修、消防大学校、海外研修
職場・自己啓発支援	講師派遣、図書・ビデオの貸し出し

●各団体で実施する研修を支援する講師派遣制度、図書・ビデオの貸出もぜひご利用ください！

※引き続き、参加しやすい研修体制づくりに努めていきますので、積極的にご参加ください。



☆研修に対するご意見、ご要望をお寄せください!!

公益財団法人香川縣市町村振興協会
香川縣市町職員研修センター

サマー
ジャンボ
宝くじ

クーちゃん

ハロウィン
ジャンボ
宝くじ

宝くじのご購入は 香川県内の売り場で！

宝くじの収益金は、私たちの街の公共事業等に役立てられています。

**宝くじ
公式サイト**

宝くじがネットで購入できる！

宝くじの収益金は、明るく住みよいまちづくりに使われます

お問い合わせ先

宝くじコールセンター

TEL 0570-01-1192 (ナビダイヤル 有料)

TEL 011-330-0777 (有料)

公益財団法人 香川縣市町村振興協会